

## 19 本物と偽物

たとえば、美術の時間に、「好きなように描きなさい」と言われて、好きなように描くのは、とても楽しいものだよ。上手だろうが下手だろうがおかまいなしに、自分が描きたいように描いたら、それだけですごく満足感があるんじゃないか。

逆に、自分がどう描きたいのかわからないまま、なんとなく人の真似をして描いたり、上手に描かなくちゃと思つて描いたりするのは、ちつとも楽しくない。たとえそれでいい点をもらったとしても、なんだか空しい感じが残るんじゃないか。

また逆に、君が人の描いた絵を鑑賞する側にまわるとしよう。確かに上手にまともなものはあるのだけど、なんだかどこにでもありそうな感じで、つまらなく、この人ほんとはどう描きたかったのかがよくわからない、そういう絵と、決して上手とは言えないけれども、迷いがなくて、独創的で、この人はこれが描きたかったんだということがはっきりとわかる魅力的な絵とがあるのに気がつくだろう。両者の違いは、描いた人の、心の構えだ。

本物と偽物という言い方がある。本当のものと、似せのものだ。よく、一流のブランド品なんか

極端なことを言っていると思うだろう。でも、人間には命よりも大事なものがある。それが精神だ。精神の正しさ、美しさ、その高さだ。命が大事なものであり得るのは、精神が大事なものであると自覚して生きるからでしかあり得ない。精神が価値ではなくて、どうして命が価値であり得るだろう。なぜなら、命の価値について考えられるのは、精神があるからこそだからだ。生き延びることそれ自体、摂食と快楽を求めめるだけの生なら動物の生に等しい。動物の生に等しくてもかまわない、そう言い切れる君は、あるいは覚悟が座っているのかもしれない。それなら君は、そのような自分の生の意味について、今後一切問うことはないはずだね。

でも、おそらくそうはゆかないだろう。すべての人間は、精神つまり言葉を所有しているからだ。言葉を所有する限り、人間は問わざるを得ないんだ、「なぜ生きるのだろうか」。

命よりも精神のほうが大事だ。でも、だからと言って、これは、精神に命を賭けるといふこととも違う。正しい仕方でも精神性を全うして死ぬというものも、それはそれで難しいことなんだ。ただ死にやいいつてもんじゃない。ある意味では、そんなのは誰にだってできることでもあるからね。その自尊心が本物なら、他人の侮辱を意に介さないように、その自尊心が本物なら、死ぬよりも先に他人に頭を下げることもできるはずじゃないか。

さあ、正しく精神的であるって、けつこう難しいことだ。でも、精神つまり目に見えない事柄のことが気になる君なら、おいおい学んでゆけることさ。今は、「名を惜しむ」という古い言い方をもうひとつ、心の隅に飾っておこう。

に、類似品にご注意下さいってあるだろ。つまり、オリジナルとコピーだ。本物は本物だから本物だけであり得るのに対して、偽物は偽物だから本物がなければあり得ない。自分ひとりであることができない。だから、独自であるということが、本物であるということの意味だ。

そして、この本物と偽物という二種の区別は、社会的に問題にされやすいブランド商品だけではなくて、すべての物、すべての事柄、すべての分野について言えることなんだ。絵画や音楽、芸術の諸分野から、文章表現による文学や思想、学問の諸分野まで、人間の行なうすべてのことについてだ。そして、人間の行なうことのすべては、その心の行なうことなのだったね。だから、本物が偽物かというのは、その人間の心の構え、つまり、その人が本物か偽物かということに他ならないんだ。

そうだな、わかりやすい身近な例から考えてみようか。誰の目にも優れているとわかるアーティスト、たとえば宇多田ヒカルみたいな人が現われるとする。そうすると、すぐに、彼女を真似した似たような歌手がいっぱい出てくるよね。それを見た君は、ああ宇多田ヒカルの真似してるな、人にウケようとして真似してるんだな、とすぐにわかるだろ。そして、つまらないな、ちつとも魅力的でないと感じるだろ。そりゃそうだよな、ちゃんと本物がそこにいるのに、本物を真似してるだけの偽物なんかには惹かれる理由があるわけがない。すべてはこれと同じことなんだ。

宇多田ヒカル本人にしてみれば、誰の真似をしているわけでもなくて、自分の好きなように歌うとこうなる、こうなってしまう、逆から言えば、そうとしか歌えないからそう歌っているわけだ。

### 空欄に改変された部分

聴衆のウケなんかまったく念頭にはないわけだ。聴衆は、そこにこそ惹かれる。彼女がそのままの彼女であるというそこにこそ惹かれることになるのだけれど、偽物にはそのことがわからない。自分が本当にしたいことがわかってないから、人の真似をしたり、他人のウケを気にしたりということになってしまう。

独自であるということが本物であるということの意味だと言ったけど、これはやさしいようで難しい。いや本当はちつとも難しくはないのだけど、いつもすごく誤解されているんだ。よく、個人的な人になりなさいとか、個人的な人になりたいとか言うよね。でも、人は、個人的になろうとして個性的になるわけじゃない。なぜなら、そんなことをしなくたって、現にすべての人は個性的だからだ。同じ人は二人としていないからだ。

もしも、個性とは、個性的になろうとしてそうなるようなものであるなら、そこには必ず他人との比較があるはずだ。人と同じようにはするまい、人と同じようにはなるまいという、他人を気にする気持ちがあるはずだ。だったら、どうしてそんな人が個性的であるはずがあるだろう。本来のその人がそうである仕方であるのではないからだ。それできつとそういう人は、わざと変わったことや珍しいことをして自己顕示する、いわゆる奇をてらう振るまいをするだろう。そういう振るまいを見て、君は、わざとらしいなと感じるだろう。個性的であるということと、人と違おうとするということとは、まったく逆のことなんだ。

でも、もしも君が、本物と偽物の見分けがまだうまくつかなくて、そういう人やそういう人のす

ることを個性的だ、彼は独自の人なんだと思ってしまうとしたら、君はこれから自分の見る目を鍛えていかなくちヤダメだ。たとえば一流のブランド品なんかは、みんながそれを一流だ、いいものだと言うから一流になっているだけで、その商品そのものは、じつはちやちな偽物かもしれない。流行の書物や人物なんかは、それが流行するというだけで、偽物である場合がほとんどだ。そうは言っても、本物を見抜ける人は世の中には稀まれだから、みんながいいと言っているという理由で、それがいいと思ひ込んでしまっただけなんだ。でも、本当にいいものを知らないで、偽物にだまされたまんまでいるなんて、ばかばかしいと思わないか。

本物を見抜ける目をもとう。本物を見抜ける人間になろう。そのためには、いいかい、君が本物の人間にならなくちヤダメなんだ。本物を見抜けるのは本物だけなんだ。ここには動かせない対応があるんだ。

人の真似をする、逆に、人の真似はしなくても、あえて人と違おうとする、それは偽物だと言った。どうしてそうなるかというのと、本当にしたこと、どうしてもそうしたいことが、その人にはないか、あるいはわかっていないからだ。けれども、本物はそうじゃない。人が何と言おうが、誰にどう見られようが、彼はそれがしたい。彼はそうするしかできないんだ。それをするのでなければ、彼にはもう生きてる理由なんかない。その意味で、彼はそれをするに命と人生のすべてを賭かけているんだ。

たとえば、ゴッホという画家の人生を見てごらん。狂人扱いされながら、事実ほとんど狂人にな

## 省略部分

## (中略) などと注記すべき部分

りながら、それでも描くことを決してやめないだろう。生活の苦しきなんか問題じゃない。なぜなら、絵を描くのでなければ生活する理由だってないからだ。普通の人は、何もそこまでしなくたってと思う。でも、そうじゃない。彼はそうするしかできないんだ。なぜそうするしかできないかと言えば、彼は自分を超えるものを見ているからだ。自分を超えた力に憑よかれてしまっているからだ。彼は、彼であって、彼ではないんだ。

もしもこれが、単に奇をてらうだけの絵かきだったら、人に評価されなかったり生活が苦しかったりしたら、すぐにやめてしまっただろう。やめて、もっと人にウケて売れそうな絵を描くだろう。どうしてもせざるを得ないことのない偽物にとっては、自分の欲得だけが行為の動機だ。彼は、自分を超えたものなんか知らない。本物の人はそういう力に衝つき動かされて描いているなんてことは、知るよしもない。ここに人間の墮落が始まる。でも、人間は墮落してまで生きている理由があるのだろうか。あとで考えよう。

徹底的に個性的であるゴッホのような人、自分がせざるを得ないからしていたそんな仕事で、しかし万人に感動をもたらすのはなぜだろう。いや、この言い方は正確じゃない。万人のうちのほとんどは、ゴッホは本物だとみんなが言うから本物なんだろうなど、感動した気になっているだけかもしれない。君がゴッホの絵を見て、本物だと思うか、感動するか、問題はそれだけだ。

もしも、ある人の仕事、ある人の姿が、他の人に感動をもたらすとしたら、それは、その人の仕事、その人の姿が、その人でありながらその人でない、その人を超えた何か大きなものに触れてい

の中を生きてゆくのは、本当に大変だ。でも、偽物の人生を生きて死ぬよりは全然大変なことじゃない。だから、本物の人間になろう。君は、君だけは、本物を見抜ける本物の人間になろう。

るからだ。だからこそ、それは、その人ではない他の人にも、感動を与えることになるんだ。もしもそれが、自分の欲得を計算して為されたような仕事だったら、どうしてもそんなものが他人に感動を与えるはずがあるだろう。

ところで、他人の仕事やその姿に感動できるためには、その人も、その人と同じ自分を越えた何か大きなものを知っている、共にそれを感じているのでなければならぬ。感動するということとは、共感するという他に他ならないからだ。だから、ある天才の仕事に感動できるとしたなら、君は、天才だ。天才が何をしようとしていたのかを理解できるなら、君は天才だ。天才を理解できるのは天才だけだという動かせない対応とは、両者が共に自分を越えた大きなもの、つまり「天」を見ているということと理解し合うということなんだ。「天」を見ない人、「天」を知らない人は、結局は天才を理解できない。

天才だなんて、そんな大それた才能は僕にはありませんって言いたいだろ。違うんだ、才能のあるなしは問題じゃない。そんなものは、二人として同じ人はいないという、個性の違いにすぎない。問題は、君が天才と共に天を見られる人であるかどうかということだ。天を見るとはどういうことか、もうわかるよね。ちっげけな自分を捨てることだ。無私の人であることだ。君が自分を捨てて、無私の人であるほど、君は個性的な人になる。これは美しい逆説だ。真実だよ。人は、個に徹するほど天に通じることになる。この宇宙は、なぜかそういうつくりになっているからだ。

本物が偽物かという問いを理解するのも、やはり本物の人だけだ。偽物ばかりが横行する今の世

池田晶子 (いけだ あきこ)

文筆家。1960年生まれ。慶應義塾大学文学部哲学科卒業。子供の頃より、ひとりで考えることと作文を好み、長じて、考えるとはどういうことであるかを日常の言葉で美しく語る「哲学エッセイ」を確立し、多くの読者を得る。とくに若い人々に、本質を考えることの面白さ、存在の謎としての生死の大切を語り続けた。著作多数。2007年2月23日、没。

その業績と意思を記念し、NPO法人わたくし、つまりNobodyにより、精神のリレーに捧げる「わたくし、つまりNobody賞」が創設された。

©池田晶子公式ページ <http://www.nobody.or.jp/>



14歳からの哲学  
—考えるための教科書—

二〇〇三年三月二〇日 初版第一刷発行  
二〇二〇年一月二〇日 初版第三十八刷発行

著者 池田晶子

発行者 工藤秀之

発行所 株式会社  
トランスビュー

東京都中央区日本橋人形町二一三〇一六  
郵便番号一〇三〇〇〇一三  
電話〇三(三三六六四)七三三四  
URL <http://www.transview.co.jp>  
振替〇〇一五〇二二四二二七

印刷・製本 中央精版印刷

ISBN4-901510-14-2 C0010 Printed in Japan

【池田晶子の本】

単行本

- 『事象そのものへ!』(新装復刊) トランスビュー/2010.2  
『考える人 口伝(オラクル) 西洋哲学史』中央公論新社/1994.9  
『オン! 植谷雄高との形而上対話』講談社/1995.7  
『メタフィジカル・パンチ』毎日新聞出版/2014.11  
『睥睨するヘーゲル』講談社/1997.1  
『考える日々 全編』毎日新聞出版/2014.11  
『死と生きる 獄中哲学対話』(共著 陸田真志) 新潮社/1999.2  
『2001年哲学の旅』新潮社/2001.3  
『ロゴスに訊け』角川書店/2002.6  
『あたりまえなことばかり』トランスビュー/2003.3  
『新・考えるヒント』講談社/2004.2  
『41歳からの哲学』新潮社/2004.7  
『勝っても負けても 41歳からの哲学』新潮社/2005.8  
『人生のほんとう』トランスビュー/2006.6  
『知ることより考えること』新潮社/2006.10  
『14歳の君へ どう考えどう生きるか』毎日新聞出版/2006.12  
『君自身に還れ 知と信を巡る対話』(共著 大峯顕) 本願寺出版社/2007.3  
『人間自身 考えることに終わりなく』新潮社/2007.4  
『暮らしの哲学』毎日新聞出版/2007.6  
『リマーク 1997-2007』トランスビュー/2007.7  
『人生は愉快だ』毎日新聞出版/2008.11  
『魂とは何か さて死んだのは誰なのか』トランスビュー/2009.2  
『私とは何か さて死んだのは誰なのか』講談社/2009.4  
『死とは何か さて死んだのは誰なのか』毎日新聞出版/2009.4  
『無敵のソクラテス』新潮社/2010.1  
『残酷人生論』毎日新聞出版/2010.11  
『幸福に死ぬための哲学—池田晶子の言葉』講談社/2015.2  
『犬の力を知っていますか?』毎日新聞出版/2015.8  
『絶望を生きる哲学—池田晶子の言葉』講談社/2017.5

文庫本

『考える人 口伝(オラクル) 西洋哲学史』中公文庫/1998.6

その他(書き下ろしを収載)

- 『テロ以降を生きるための私たちのニューテキスト』角川書店/2001.11  
『伝え合う言葉 中学国語3』(教科書) 教育出版/2005.3